

## 蚊媒介感染症対策について（施設の管理者向け）

熊本県健康福祉部  
健康危機管理課

### ◇避難所の管理者の皆様へ

初夏から秋にかけて蚊が発生し、蚊に刺され、痒みに悩まされる方が増えてきます。また、蚊は感染症を媒介することもありますので対策が必要になってきます。

蚊の対策は、蚊を増やさない環境作り（幼虫対策）と蚊に刺されない環境作り（成虫対策）を並行して行うことが大切になります。

昨今話題になっているデング熱やジカウイルス感染症（ジカ熱）はヒトスジシマカが媒介すると言われていいます。現在、これらの感染症は日本では流行していませんが、海外の流行地から訪れた感染者が、日本国内で蚊に刺され、そこから感染が広がるのが懸念されていますので、蚊の対策を行うことが求められています。



ヒトスジシマカ（国立感染症研究所）

### ◇蚊の生態

蚊は卵を水際に産み（1回に100程度）、約3日で幼虫（ボウフラ）になります。水中で1、2週間生息したのち、成虫（成虫の寿命は約30日）になります。

## ①蚊を増やさない環境作り（幼虫対策）

蚊の活動時期は5月から10月です。蚊を減らすには、早めに発生源をなくすことが最も重要です。蚊の卵やボウフラにとっては、葉に溜まる水滴程度の水溜まりでも十分に生息できます。

### 【幼虫対策】

- ・幼虫（ボウフラ）は小さな水溜まりに発生するので不要な水溜まりをなくす。
- ・植木鉢の受け皿、バケツ、古タイヤ、空き缶など、溜まった水をひっくり返したり、不要なものを片付けたり、定期的に水を変えたりしましょう。
- ・排水溝や雨水マスはこまめに清掃し、排水が困難な場合は金網で蓋をしたり、幼虫の成長阻害剤などを定期的に投入しましょう。

（裏面あり）

# ヒトスジシマカの幼虫の発生源

①ヒトスジシマカの発生場所

②ヒトスジシマカは発生しない環境



ヒトスジシマカは小さな水場



出典: 国立感染症研究所

## ②蚊に刺されない環境作り (成虫対策)

草や木が茂っていると、蚊の格好の隠れ場所になります。また、吸血する蚊はメスのみで産卵に必要なためです。(オスは吸血しません)

### 【成虫対策】

- ・ 草むらや藪を定期的に刈り取り、風通しや日当たりをよくし、成虫の潜伏場所をなくしましょう。低木の葉裏や地面を覆うように繁るツタの葉裏などにも潜みます。
- ・ 蚊の侵入場所に防虫網・網戸を設置する。
- ・ 外では肌の露出を避け、虫除けスプレー等を用いるなどの啓発を行う。



< 成虫の潜み場所 (国立感染症研究所) >